

年頭所感

一般社団法人組込みシステム技術協会

会長 竹内 嘉一



あけまして、おめでとうございます。

旧年中は、当協会活動に格別なるご支援を賜り、心より感謝いたします。

本年も引き続きお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年2023年は、政治、経済、社会、技術などあらゆる面で変化があった年でした。

先ず思いつくのは新型コロナウイルス感染症が5類感染症となりウィズコロナに移行したことで、法律に基づく外出自粛などの要請はなくなり、感染対策は個人や事業者の判断が基本となりました。

経済面では、これまで自粛要請されていたイベントの復活や国内外への旅行客が急増し、6月には日経平均株価が約33年ぶりに3万3,000円台に回復。9月にはTOPIXも高値を付けました。

しかしながら地政学的リスクが益々高まる一方で、エネルギー価格や原材料価格は高止まり、円安基調も継続する中、個人消費としての物価高騰が身に染みた1年でもありました。

技術面では生成AIが活用フェーズに入り、活用上のガイドラインとして注意点や制約事項、活用シーンとプロンプトの入力テクニックなどが整備されつつあり、翻訳やコンテンツ作成に留まらず、アイデアの壁打ちやプログラミングにまで裾野が広がってきています。

こうした中、JASAの活動もウィズコロナに移行し、『JASAビジョン2030』の下、様々なイベントや活動をリアル開催に戻し、活動は堅調に回復して参りました。

2年目となります『EdgeTech+』は、新たなプラスとして変革期の真只中である自動車開発のソフトウェア技術、最新動向などにフォーカスした【オートモーティブソフトウェア エキスポ】を企画・開催し、過去最高の来場者数を呼び込むことに成功しました。とは言え課題も山積しており、今年はこの課題を解決し、さらなる成長に向けて邁進していく所存です。

また、組込みソフトウェアの教育教材とETロボコンのコンテンツを活用した海外人材の教育事業も盛況で、昨年は教育過程で優秀な海外人材をインターンシップでの受入れを実施し、スモールスタートではありますが成功裡に完了することができました。

結果、参加各社からは技術レベルの高さを評価いただき正式採用にまで至るという成果を出しており、今年は更に規模拡大に向けて進めて参ります。

今年は、『JASAビジョン2030』1stステージの3ヵ年計画の最終年で成果としてまとめる年となります。

重点活動項目は以下の7施策を基軸とし、しっかりと活動を具現化させ、成果を出して参ります。

- ①業界のトレンドをリードし、ビジネス交流の場である展示会事業を時代にマッチさせ発展させる
- ②先行技術の研鑽と企業の垣根を超えた場の提供及び成果物の共有化
- ③経営者の意識を変える研修、人脈形成の場の提供
- ④業界の認知度向上と人材採用活動の推進
- ⑤グローバルを視野に入れた事業形成と対応できる人材育成
- ⑥2030年に向けて会員企業から求められる人材育成の追求
- ⑦地域活性化を実現する取り組み

今年の干支は「甲辰(きのえたつ)」です。甲辰は、「これまでコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のようにすく々と伸びて、努力が花を咲かせる」という意味があるようで、『JASAビジョン2030』1stステージの最終年としてしっかりとした成果を出す年となりますよう、皆様と共に力を合わせ、知恵を出し、進めて参る所存ですので、ご理解とご助力をお願い申し上げます。

最後になりますが、まだまだ寒さが続くなか、皆様におかれましては新型コロナウイルス感染症やインフルエンザにご留意いただき、今年も一年、健やかに過ごせる良い年になること祈念申し上げます。